

青丘社ニュース

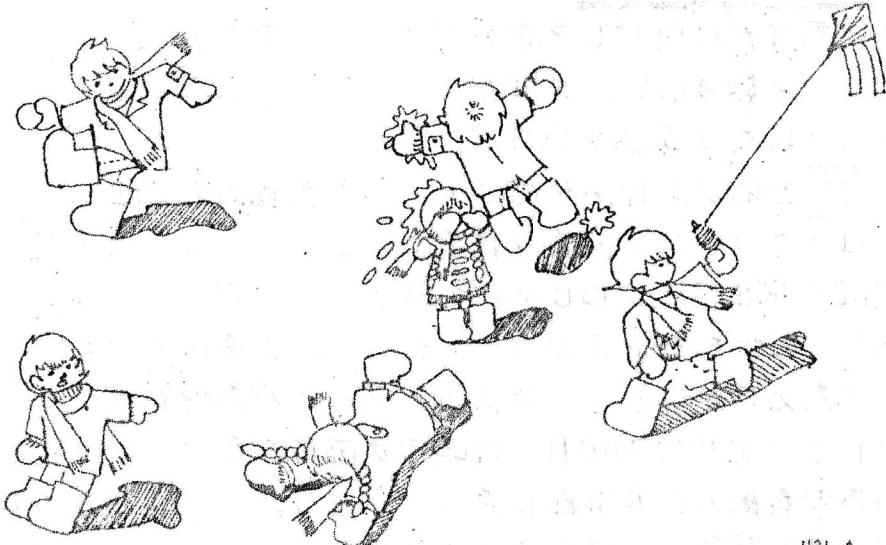
創刊号

発行：青丘社後援会
編集：青丘社運営委員会

川崎市桜木1~8~22

TEL(288)2997

発行日：1978年1月1日



青山はるか

発刊にあたって

私たちは、今まで桜木保育園を通じて、この地域のオモニ。アボシ、母さん。父さんと共に子供の将来や毎日生活してゆく中での怒り、願い、悩みを話し合ってきました。そして、川崎市民生局の登託事業として児童保育を開設し、また児童手当の国籍条項をなくす取組みなど、住みよい地域社会をめざして手をとりあつてきました。

新年にあたって、私たちはより多くの人々と共に歩むため、新聞を発行することになりました。私たちの住む地域をよりよくするためにみんなの力をひとつにして、共に生き共に活動してゆく一助となればと願っています。

社会福祉法人
青丘社
のあゆみ

社会福祉法人青丘(せいきゅう)社が二の地域の桜本に設立されて5年目をあがえます。そして、桜本保育園をはじめてからは10年目になりました。青丘社の保育園や学園には、日本人の子どもと韓国朝鮮人の子どもがいっしょにいます。そして日本人の保母と韓国人の保母があり、学園には日本人の青年と韓国人の青年が教師として働いています。青丘社は、在日韓国人が主体となって育まっていますが、このように日本の友人たちとともに地域の活動をすすめています。

青丘社のあゆみを語ると、保育園の活動を抜きにして語る二とはできません。桜本保育園は、在日大韓キリスト教川崎教会が、1968年(昭和43年)はじめたものです。其働きの夫婦が多い二の地域の子どもたちをあずかることが、この地域の人々に仕えていくことだと考えたからです。無認可であった桜本保育園は、園舎を新築して1973年(昭和48年)10月に川崎市の認可を受け、社会福祉法人青丘社桜本保育園となり現在に至っています。このように、青丘社は桜本保育園を基盤にして生まれたのです。

そして、設立された青丘社を基盤にしながら地域活動をはじめたのが、在日韓国朝鮮人青年の集まりである「在日同胞の人权を守る会」の会員たちです。人权を守る会は、在日韓国人青年朴鐘硕(パク・ジョンソク)君に対する(株)日立製作所の取扱差別を訴えた裁判の運動へなかから生まれたのです。1974年6月、裁判に勝利した朴君と運動を支えてきた在日韓国人青年、そして日本人の青年たちは、身近な生活のなかでおきているさまざまな民族差別を取り組みはじめました。そして、民族差別のなかで傷ついていく子どもたちを見守ろうと、池上町など子ども会活動をはじめました。

その一方で、同じ市民であり税金も納めている在日韓国朝鮮人に、さまざまな権利が与えられていないことに抗議して、川崎市との交渉を行いました。行政差別との取りくみは、二つしそして1974年7月に、川崎市に対して公用車内状を出すことからはじまりました。

この時に要求されたのが、児童手当と公営住宅入居資格の国籍条項撤廃でした。この要求は、地域の皆さんとの署名とともに請願書が該会に提出され、該会も請願を認めて翌年から実施されるようになりました。

子ども会活動、行政交歩といった活動を続けるなかで、どんどんと地域のアボダ、オモニ、そして父母のかかえている悩みが少しづつ見えてきました。それは特に子どもの教育に関する事でした。そこで取り組みはじめられたのが、川中学生のための塾形式による青丘社根本学園です。学園をはじめて一ヶ月後の1976年(昭和51年)には地域の留守家庭児のための学童保育事業を市から委託されました。そして生まれたのが学童保育「ロバの会」です。学園は現在、小学1年～3年の「ロバの会」、小学4年～6年の「タンポポの会」、そして「中学生の会」の三つからなっています。

二 うして青丘社は、このら当局の面によくやく保育児から中学生までの地域の子どもを見守る体制をつくりあげることができました。しかし、子どもたちがもっと明るく元気に成長できるよう、特に韓国朝鮮人の子どもたちが自分の民族を誇れるような教育実践が深められなければなりません。また、行政交歩も児童手当をとつて以来、要保護世帯の入学支援金、奨学金の国籍条項をなくさせましたが、まだ要求し改善しなければならないことがたくさんあります。

韓国朝鮮人の子どもと日本人の子どもたちを見守り、「差別をしない、許さない」子どもたちに育てるために、そして、この地域を明るく住みよいものとするために、青丘社は、地域の人々とともにさまざまなことを手がけながらあゆみをすすめたいと思います。

焼肉と中華のうまい店

横本小正門前通り

川崎市川崎区横本1-16-5 TEL(277) 9180

丸 福

桜本保育園

「アンニヨンハラムニカ」 管園した子供たちは、先生にあいさつをしてかけていきます。子供たちは、いろんな遊び方を自分たちで考え、自分たちでルールをきめて元気いっぱいです。自由あそびや工作。歌。リズム体操。かみじはい……子供たちは遊びの天才です。

ショシファがいきます。みゆきちゃんもいきます。わくままをいう子はまりりの子が許しません。ひできくんが泣いていると、みんなが「どうしたの？」と寄ってきます。こじぱがうまくしゃべれない子も体で遊びまりります。足。手に障害のある子はみんなが手伝って工作しています。

桜本保育園は5つのクラスにわかっています。○3歳のピヨンアリ組：1～2歳児のチューりッタ組 ○3歳のシンシア組そして4～5歳児は日本くクラスのひまわり組と、韓国。朝鮮人クラスのテンタリし組の2つにわかっています。韓国。朝鮮人の子供に、もっと母国語や母国の歌を教えてあげたいのです。

今、テンタリし組では、やく先生が子供たちにおはなしをしています。となりのクラスでは川原先生のピアノにあわせてリズム体操です。こんなに元気な子供たち、明るく遊ぶ子供たち。でも先生やオモニ。アボニ、母さん。父さんは、この子供たちがずっと元気で明るく成長してゆけるのが心配でたまりません。この子供たちが、のびのびと生きてゆける社会を作るよう活動しなければと思っています。

焼肉・鰹さしみ・とじょうスープ専門店

焼肉 大京 壱

大小宴会承ります。

川崎市川崎区浜町3~4~5 TEL(344)4881~2

去年 保育園を卒園したばかりの子供たちも、ひとまれりたくましくなって「ロバの会」で遊んでいます。今日は学校で何があったか先生とお話しをして、みんなが学校からかえっこいたら、そろって公園へ行って野球をしたり、サッカーをしたり。料理をみんなで作ってたべることもあります。絵をかいたり、学校の宿題もします。

学童保育



と学童保育「ロバの会」は、おととしの4月に始まりました。子供たちが保育園を卒園しても、今後も同じように明るく元気に成長していくように見守ってゆきたい——保育園を卒園する子供たちの親が中心となって、市のお役さんを呼んで地域のみんながロバに学童保育の必要性をうたいました。「今の

交通戦争の中では、小学生低学年の子供を残して親が守りして動けない」「子供たちは元気にのびのびと遊べる場所がない」こうして、市の看護事業として開設された“学童保育”は、どんな時にも強く、着実に歩む子供に向ってほしいといつ私たちの願いから「ロバの会」と名づけられました。以来2年間「夏休みにはどんな行事をくもうか」「もっと子供たちが楽しのるよう玩具をそろえなくては」と地域の人々みんなが頭を悩まして1から作りあげてきたものです。

「ロバの会」の子供をもつある大モニは、次のように語っています。

「私が仕事から帰ると、子供はいつも今日『ロバの会』でなにをしたか 兼しそうに話をするんです。子供は『ロバの会』の話ををするのがとってもうれしそうで、私はそういう子供の話を聞くのがたいてんの楽しみなんです。」

タンポポの会

紹介

私たち榎本学園タンポポの会の活動も4年目を迎えようとしています。タンポポの会は、小学校4年～6年の子供と共に勉強したり、共に遊んできました。

小学生も高学年になると勉強もむずかしくなり、学校の授業についていくことも大変になってきます。又、子供の間でも遊びの範囲も拡がり、様々な問題を抱えています。

私たちは、このような環境の中で子供たちが抱えている様々な悩みを、オモニアボジ。母さん父さん。子供たちと共に考え共に解決して行こうと考えています。勉強では、週2回国語（日本語）、算数を中心とする授業について行けることを目指して、基礎からやりなおそうと考え、教材なども準備してきました。勉強がどんどんわかってくるにつれて、子供が自信を持ち明るくなったり子供もいます。遊びの面では、毎週土曜日やってきたサッカーなどを通じて、学年をこえた仲間もできつつあります。そんな時、勉強している時とは打ってかけ、2. 子供たちの目はキラキラ輝いています。このような活動の中から、日本の学校に通っている韓国朝鮮人の子供たちが、韓国朝鮮人として自信を持ち、強く元気に育つようにとの願いをこめて、毎年4月より毎週土曜日に“民族クラス”を開いています。今、このクラスの中で子供たちは、母国語を習い、歌を唄い、話し合いをしながら、「私は、韓国人よ」と大きな声で言えるようになってきました。

私たちは、この地域の子供たちが、皆、強く明るく育ち、生きて行けるように、オモニアボジ。母さん父さん。子供たちと共に歩んで行こうと思います。

■ 月。水曜日 午後4時30分より。土曜日 2時より。

学園 中学生部 の紹介

私たち桜本学園中学生部は、今年で4年目を迎えます。最初当時は生徒も10名と少なくて教師も数名でした。しかし現在では、生徒は30名を越え、教師も10名を数えています。中学生という時期は、精神的にも肉体的にも大人への脱皮の段階であり、進学・就職又は家庭の状況などにも心を痛め、その悩みも深刻で複雑です。

私たちは、この3年間、どのように心が激しく揺れ動いて不安定な中学生と共に学び、遊びながら少しでも彼らが希望をもって生きてゆけることを願って活動してきました。

特に学校の中で学力的に落ちこぼれ、人間関係がうまく持てなくてはいけない非行に走る中学生の内題は深刻です。彼らは今こゝへ一方で荒れ、一方で何事にも無気力です。しかし、その原因を考えた時、彼らだけを責めることは出来ません。中学生の周囲には、彼らの足を引張るものはかなりです。

* * * * *

学園では少しでも学校の授業についていけないように基礎学力の充実を目指してきましたが、学力といふものは毎日の積重ねであり、とにかく中学生自身が“ヤル氣”をもたなくてはなりません。

彼らは中学生ではありますが、彼らを一人の人間として認めて、厳しく、しかも深い关心と愛情をもって接することが必要だと思います。

家庭と中学生、そして私たちが同じ手を結ぶことができるようになりますように。又、私たちが、彼らの良玉アニキ、マネキに附れるように、頑張りたいと思っています。

勉強時間　月曜日 夜 7時～9時

木曜日

入園いつでも
受け付けてます

あなたも 社会福祉法人青丘社後援会の 会員になって下さい！

社会福祉法人青丘社は、69年開設した保育園と74年開設された
桜本学園を母体とし、この地域の日本人、韓国・朝鮮人の子供たち
との相互の成長を願い運営してまいりました。しかし、子供たちが
もつとのひのひ遊び、勉強するためには 場所、教材、器材
人材などの充実を更にめざしてゆかねばなりません。こうして
私たちの事業に御理解と御協力をよせられ、又、共に、事業区
にあって下さることを許え、多くの方々が青丘社後援会の会員にな
って下さるようお願いします次第です。

- 会員 年額2400円（青丘社ニュース毎月無料配布）
- 申込先 川崎市川崎区桜本1丁目8番22号 青丘社宛

創刊号 編集後記

- たつて8ページのニュースはおに、随分と骨を折りました。
され相当の反響を期待しております。ハイ。（お）
- 川崎に来て2年半、この間に多くの仲間と友人を得ました。
このニュースによって更に仲間と友人が出来ればと思います（お）
- 新人登場！ 中原区の住民代表のつもりで、毎日勤勉の連続
です。中学生部の「期待の星」、又の名を山嵐（ち）
- やっと勝手なことをかけた欄になりました。私は山嵐ではありません。
若手“マドンナ”的読者を期待します。（や）
- 編集後記を書こうとしても、手に恐怖の印刷の仕事が残って
いるのです。ギャッ～!! （す）
- ユニークなミニコミ版にしていと頼っています。汗と涙とズ
ボラのネグリの新聞ですが少しあげて下さい。（ね）